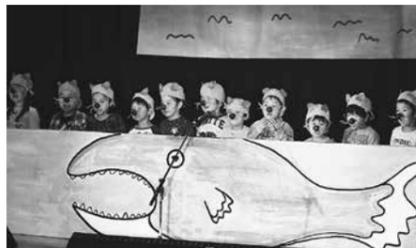




子どもたちの演技に観客も大喜び(摩周丘幼稚園)

## みんなで頑張りました

おひさま発表会  
摩周丘幼稚園お遊戯会



大張り切りの園児たち(おひさま保育園)

おひさま保育園(元山久美子園長)のおひさま発表会が10月23日、同園で行われました。0〜5歳児がそれぞれ、各クラスのテーマに沿ったお遊戯や劇などを披露。保護者にとっては、園生活が垣間見られる貴重な場となりました。摩周丘幼稚園(鈴木幸栄園長)のお遊戯会が11月13日、摩周観光文化センターで行われました。

園児は、2〜5歳児のクラスごとに歌や楽器演奏、踊り、劇などを披露。この日のために一生懸命練習してきた成果を、元気いっぱい舞台上で発表していました。カメラやビデオなどを手にして集まった保護者などからは、たくさん拍手が送られました。



さまざまなステージが繰り広げられた芸能発表会

発表会には23団体から336人が参加。練習を重ねてきた吹奏楽や舞踊、合唱、バントワリ、トントワリ、ソングなどを披露し、訪れた皆さんから大きな拍手が送られていました。

## 文化活動の成果を披露

第67回弟子屈町総合文化祭



力作が並んだ展示部門

第67回弟子屈町総合文化祭の展示部門が、9月30日から10月2日にかけて町公民館で開催されました。26の団体や個人などが、絵画や陶芸、短歌など、日頃の文化活動の成果を発表。多様な作品が訪れた方々の目を楽しませました。

10月2日には町公民館で茶道部門も行われ、訪れた皆さんにお茶がふるまわれました。10月30日には、摩周観光文化センターで芸能発表会が行われました。

### 町の話



### 町の話

### 町の話



### 町の話

## 再来年の事業化目指し

南弟子屈地域活性化協議会  
第5回ワーキンググループ



小澤会長があいさつ



各グループの意見を書き出し

南弟子屈地域活性化協議会(小澤重則会長)の第5回ワーキンググループが10月24日に行われました。同協議会は昨年3月の昭栄小学校閉校を受け、地域自治会が主体となり、行政をはじめとする関係諸団体とともに地域活性化に取り組むために設立されたものです。これまで、地域の将来ビジョンを達成するための3つのプロジェクト、チームを立ち上げ、酪農体験ツアー、ライダーハウス運営、特産品開発などの活動を行ってきました。今回は、今年度上半期までの各プロジェクトの進捗よく状況を報告。また、下半期以降の目標を発表し、今後の取り組みの確認を行いました。さらに、地域おこし協力隊員の任期満了となる平成30年3月には人が集まり集う拠点となるよう、事業展開を目指すことを確認。協議会設立の趣意である地域の「自立」と「持続」に向けたプロジェクトチームの活動の事業化イメージを全体で共有するため、事業化に対する考えを4班に分かれて発表し合いました。

## 命の大切さ・尊さ学ぶ

赤ちゃんふれあい体験  
思春期保健講座



安藤さんの話に聴き入る生徒たち

催されているもの。町内小学校の6年生、中学校3年生、弟子屈高校2年生が受講しました。講師は思春期保健相談士の安藤由美子さん。妊娠が成立し無事にこの世に産まれてくることは奇跡に近い確率で、全ての人が大変な命。多くの人に育ててもらった命を大切にしたいと話し、子どもたちは真剣に聴き入っていました。



かわいい赤ちゃんふれあう高校生

弟子屈高校(木村浩士校長)で10月13日、2年生を対象とした赤ちゃんふれあい体験が社会老人福祉センターで行われました。赤ちゃんのかわいさや育児の喜びを知り、命の大切さについて考えてもらおうと、町と同校が連携して毎年開催しています。町内に在住の赤ちゃんとそのお母さん、お父さん15組が生徒とおふれあいました。生徒は出産や子育ての喜びや大変さを聴いたり、赤ちゃんを抱っこするなどして、貴重なひとときを過ごしました。10月31日・11月1日には、町主催の思春期保健講座が弟子屈小学校と弟子屈中学校、弟子屈高校で開催されました。妊娠の成り立ちや出産までを学ぶことで、命の大切さを再確認し、自己や周りの心身を大切に考えられるようになってほしいと毎年開催されている。10月31日には、町主催の思春期保健講座が弟子屈小学校と弟子屈中学校、弟子屈高校で開催されました。妊娠の成り立ちや出産までを学ぶことで、命の大切さを再確認し、自己や周りの心身を大切に考えられるようになってほしいと毎年開催されている。